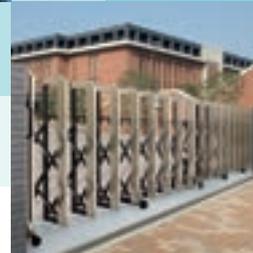
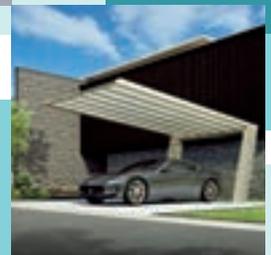


株主・投資家の皆様へ

第 **98** 期 報 告 書

2017.4.1 ▶ 2018.3.31



P1 株主・投資家の皆様へ

P3 連結業績ハイライト

P5 特集

P7 企業情報

株主・投資家の皆様へ

「グローバル・ニッチ企業」を目指し、  
新しい価値の創造により社会の発展に貢献してまいります。



代表取締役社長 兼 C.E.O.

田中直人

株主・投資家の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

ここに、第98期(2017年4月1日～2018年3月31日)における事業の概況と業績につきまして、ご報告申し上げます。

当連結会計年度におけるわが国経済は、輸出の増加を背景に生産や設備投資の拡大が続く企業部門が牽引したものの、期末にかけて為替の円高が進行し、景況感は悪化しました。

一方、世界経済は米国を中心に緩やかな拡大が続いていますが、米中間の貿易摩擦を巡る緊張が企業マインドを圧迫し、先行きへの不透明感が高まりました。

このような状況下、当連結会計年度の当社グループの売上高は、化学品事業、建材事業ともに前年の実績を上回り、前年同期比2.7%増収の507億91百万円となりました。利益面では、化学品事業でファインケミカルの高収益製品の伸張や、建材事業の販売が好調に推移したこと等により、営業利益は前年同期比4.0%増益の81億67百万円、経常利益は同1.9%増益の84億50百万円、親会社株主に帰属する

## 「中期経営計画2019」 (2016年4月～2019年3月)

真のグローバル・ニッチ企業として、徒に大なるを求めず、強靱で筋肉質な企業になることを目指します。

### 1. 新規コア製品の確立を何よりも重視する

将来の収益の柱となる製品を集中的に育て、企業価値を向上させる。

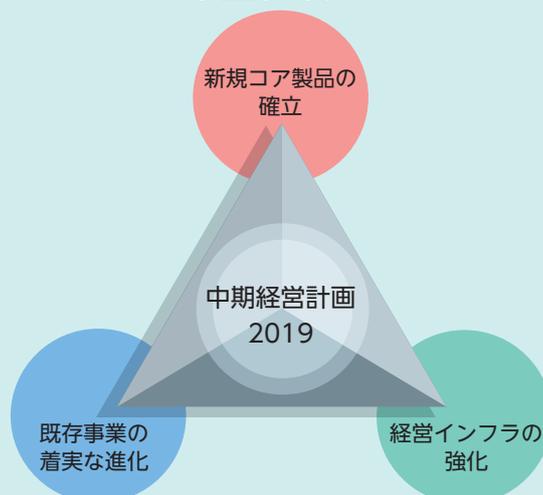
### 2. 基盤である既存事業の着実な進化

長期的な展望と緻密で実効性の高い戦略から事業の進化をはかる。  
新規コア製品が収益源となるまでの財務的な基盤とする。

### 3. 経営インフラの強化

経営インフラを強化することで、事業戦略を支える推進力とする。

## 最重要戦略





私たちは  
常に独創性を重んじ、  
これを会社発展の原動力とする。

「独創力」は、未来永劫掲げていく四国化成グループの理念です。  
二硫化炭素の革新的な製法の発明に始まり、その後も節々で独創性の発揮を  
成長の礎、発展の力としてきました。  
これからも弛まぬ成長を続けていくために掲げる至上の価値観です。

豊かで輝く企業、  
小粒でも世界に通用する企業集団となる

- コア・コンピタンスに基軸を置いた事業運営
- イノベーション重視の攻撃的なグローバル・ニッチ企業志向

当期純利益は同13.2%増益の66億10百万円となり、  
売上高、利益ともに過去最高を更新しました。

当社グループでは、2019年3月期を最終年度とする  
3カ年計画「中期経営計画2019」に取り組んでおります。  
この計画で最も重視しているのは、今後の持続的成長を  
見据え、既存事業周辺分野から将来の売上高、利益に繋がる  
「新規コア製品」を確立することです。進捗の一端を  
本誌でもご紹介しておりますが、計画最終年度を迎え、  
グループを挙げて目標達成に取り組んでまいります。

さて、当社は戦後間もない1947年、二硫化炭素の製造  
を目的に設立、以来、「独創力」を企業理念に掲げ、地道に  
「ものづくり」に邁進してまいりました。株主の皆様を  
はじめとするステークホルダー各位のご支援のもと、

昨年10月10日には節目である創業70周年を迎える  
ことができ、当社は百年企業への第一歩を新たに踏み  
出しました。

「イノベーション重視の攻撃的なグローバル・ニッチ  
企業」をめざす四国化成。これまで「独創力」を發揮し築き  
上げた技術を次世代の製品に変化させ、新しい価値の  
創造で社会の発展に貢献してまいります。

株主・投資家の皆様には、今後とも一層のご理解と  
ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2018年6月

## 第98期の主な取り組み

### 1 「GliCAP®」処理設備の拡充



プリント配線板の銅表面を粗化すること  
なく、化学的に銅と樹脂の密着性を向上  
させる「GliCAP」。2018年3月、R&D  
センター内の処理設備を拡充しました。  
この設備を活用し、様々な用途や量産  
稼働に応じたきめ細かな技術サポ  
ート体制を更に強化してまいります。



### 2 機能材料が順調に伸長

最先端の電気・電子材料の高機能化に  
貢献する機能材料製品群の一つである  
グリコールウリル誘導体などの新規開発  
製品の採用が進み、順調に伸張しました。  
新規顧客獲得に向けた新規開発品の  
展開に加え、高付加価値分野の探索を  
継続しています。



### 3 「ネオクロール マリーン®」の供給体制を整備

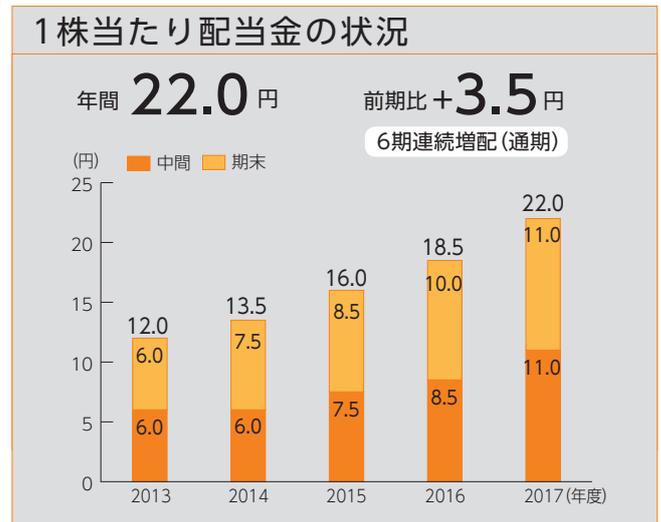
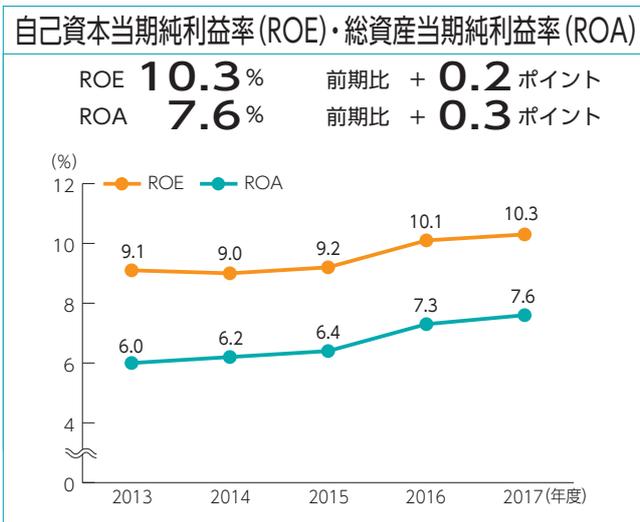
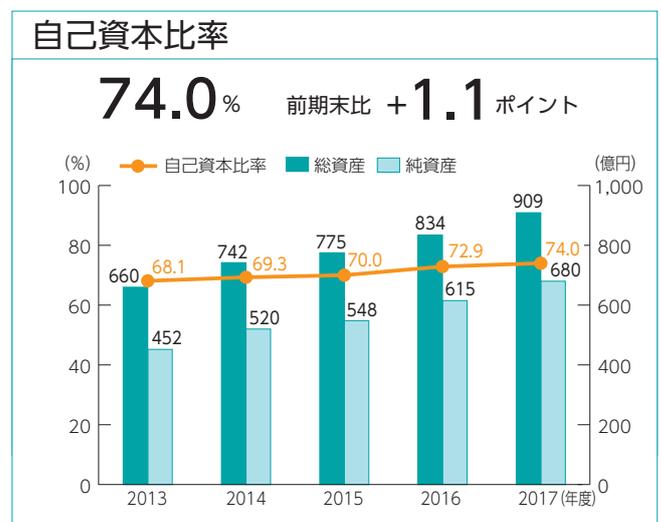
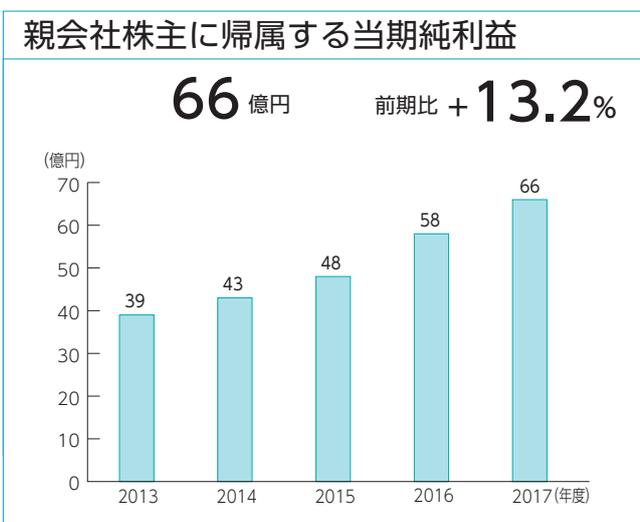
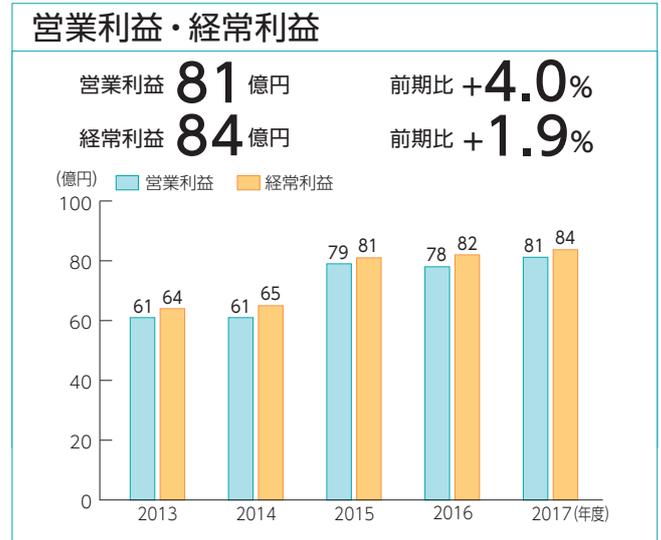
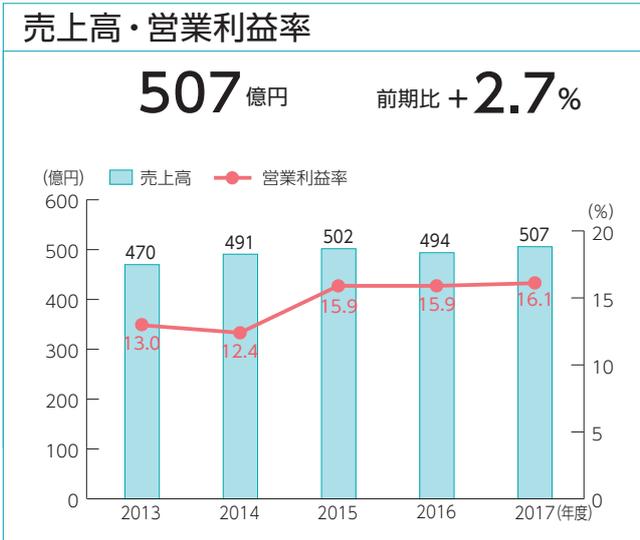
2017年9月、「バラスト水管理条約」が  
発効され船舶へのバラスト水処理設備の  
搭載が義務化されました。バラスト水  
処理装置向け薬剤「ネオクロール  
マリーン」の本格的な需要拡大に備え、  
世界各地の港への薬剤配備を進め  
ています。



業績のポイント

- 売上高は前年同期比2.7%増の507億91百万円。過去最高を更新
- 営業利益、経常利益、当期純利益ともに過去最高を更新
- 配当金は70周年記念配当を含め前年同期比3.5円の増配。6期連続増配

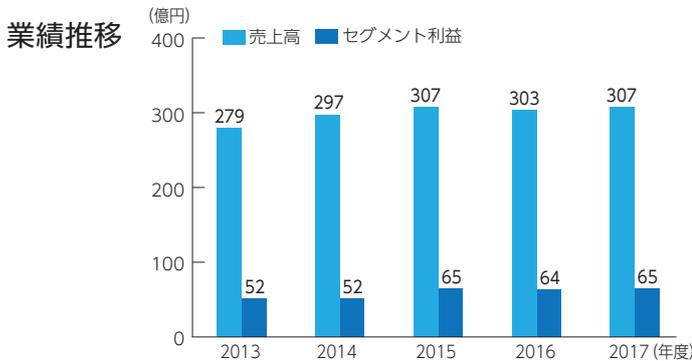
※グラフ中の金額は、億円未満を切り捨てて記載しております。



## セグメント別事業概況

### 化学品事業

売上高 **307** 億 **1** 百万円  
セグメント利益 **65** 億 **73** 百万円



不溶性硫黄は、生産工場の大規模修繕工事に伴い一時的に出荷が減少しました。シアヌル酸誘導品は、国内向けは順調に推移したものの米国市況軟化の影響を受けました。ファインケミカルでは、タフエースを主力とする電子化学材料で輸出が好調に推移したほか、イミダゾール類を中心とする機能材料も新規開発品や輸出を中心に伸ばしました。

この結果、化学品事業の売上高は307億1百万円 前年同期比1.2%の増収、セグメント利益は65億73百万円 前年同期比2.1%の増益となり、いずれも前年を上回りました。

#### 主要製品



##### 無機化成品

- 不溶性硫黄 (ラジアルタイヤ用加硫剤)
- 二硫化炭素 (化学繊維レーヨンの必須原料)
- 無水芒硝 (入浴剤の温浴効果促進剤、合成洗剤の洗浄助剤)



##### 有機化成品

- シアヌル酸誘導品 (プール・浄化槽の殺菌・消毒剤、船舶バラスト水の殺菌剤)
- ハイボルカ (排水・汚泥処理剤)



##### ファインケミカル

- タフエース (プリント配線板向け水溶性防錆剤)
- イミダゾール類 (エポキシ樹脂の硬化剤、機能材料、医薬品原料)

### 化学品事業 60.4%

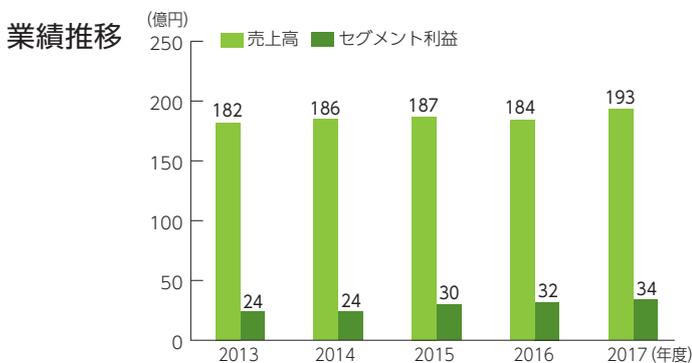
売上高  
構成比



### 建材事業 38.1%

### 建材事業

売上高 **193** 億 **76** 百万円  
セグメント利益 **34** 億 **49** 百万円



エクステリアは、住宅分野、景観分野ともに好調に推移しました。壁材は、湿式壁材市場が停滞する中、収益性の改善に努めました。

この結果、建材事業の売上高は193億76百万円 前年同期比4.9%の増収、セグメント利益は34億49百万円 前年同期比6.5%の増益となり、いずれも前年を上回りました。

#### 主要製品



##### エクステリア

- 住宅エクステリア (門扉、フェンス、カーポート、アコーディオン門扉、アルミシステム塀)
- 景観エクステリア (大型門扉、大型フェンス、通路用シェルター、自転車置場、ゴミ集積庫、屋上緑化等)



##### 壁材

- 内装材、外装材、舗装材



## いつもの場所を、価値ある空間に「エクステリア事業」

住宅の車庫前や工場の出入り口など、身近なところにある伸び縮みする門扉。「アコーディオン門扉」の名で世の中に初めて誕生させたのは、実は四国化成でした。

1947年に化学メーカーとして創業した当社は、化学分野から発展した内装壁材で建材事業に進出。1972年、アコーディオン門扉の発売を機にエクステリア分野へと事業を拡大していきました。建材事業は、化学品事業とともに確固たるコア事業となり、今日の当社を形作っています。

### 「アコーディオン門扉」でエクステリア分野へ参入

1970年に内装壁材で建材事業へと参入しましたが、業界における地位はまだ磐石とはいえず、事業を安定成長させるためには新たな製品開発が求められていました。折しも高度成長期のピークを迎え、好調な住宅建設とともに“マイ

カーブーム”も到来していたことから、車庫前門扉の開発に取り組むこととなりました。それまでの門扉は開き戸や引き戸が一般的で、扉自体の動線や開口した際の扉の収納に一定のスペースが必要でした。敷地の狭い日本の住宅事情に着眼し誕生したのが、無駄なスペースをとらず伸縮機構で簡単に開閉できるアコーディオン門扉でした。1972年に水平パンタグラフ式の「ゴールド」を、翌年には、垂直パンタグラフ式の「ダイヤ」を発売。以来、素材や機能、デザインに磨きをかけ、新たな製品を次々と世に送り出していきました。



## エポックメイキングとなった製品群 (抜粋)

1972年～

1972年 業界初！“アコーディオン門扉”誕生



アコーディオン門扉  
「ゴールド」



大型アコーディオン門扉[XL型]

1980年～

1983年 景観エクステリア市場進出の  
きっかけとなったカーポート



「Qポート」

1987年 当社2つ目のグッドデザイン  
商品に選定



大型アコーディオン門扉[ALX14型]

## 機能とデザインの融合。業界初のグッドデザイン賞に

初めて登場したアコーディオン門扉は予想を上回る売れ行きを示し、建材業界において「30年に一度」と言われるほどの大ヒット商品となりました。コンパクトに開閉できる機能性に加えて、アコーディオン式ならではの幾何学的な構造をデザイン面からも追求した結果が市場に認められたのです。機能とデザインが融合した「機能美」は、その後も脈々と受け継がれ、1984年にはアコーディオン門扉「ルビコン11型」で業界初となるグッドデザイン商品(現：グッドデザイン賞)に認定されました。これで市場に“デザインのシコク”を印象づけ、1987年に大型アコーディオン門扉「ALX」、1991年には「プロトアコー S1型」ほか3機種など、立て続けに同賞を獲得しています。



アコーディオン門扉「ルビコン11型」



## 景観エクステリア分野を切り拓く

エクステリア業界に本格参入した当社は、広がる市場のニーズに応え、門扉、フェンス、カーポートと次々に製品をラインナップ。こうした中、1983年に発売した家庭用カーポート「Qポート」が、エクステリア事業に新たな発展をもたらすこととなりました。「Qポート」は、玄関前へと続く通路部分の半円形の屋根と駐車スペース用のフラットな屋根を組み合わせた製品でしたが、設計事務所やユーザーからの様々な要望に応え続けた結果、駅前広場やバスターミナルなどのアーチウェイ(通路屋根)としてカーポートの領域を超える製品へと成長。「Qポート」の登場は、すでに発売されていた大型アコーディオン門扉と合わせ、公共空間を形成する景観エクステリアという新分野を切り拓くきっかけとなりました。

景観デザインを構成する公共施設向け製品は、それぞれの現場に合わせた設計・製造が必要なため、1989年には営業体制を整え、景観分野(セミパブリック)に注力。それまでの受注販売とは異なり、顧客の要望に応じて用途展開や技術提案を行う新たなビジネスモデルを確立していきました。こうした活動の中からは、集合住宅などで多く採用されている「ゴミストッカー」をはじめ、当社が新たな市場を切り拓いていった製品も生まれています。当社は景観分野に強みを見出し、その優位性は今もなお他社の追従を許していません。

## 受け継がれる機能美 ～独創力～

その後、トータルエクステリアメーカーとして、住宅・景観分野ともに時代に即した製品を発売し、幅広い品揃えを展開してきました。2003年には、それまでの常識を覆し市場に新たな風を吹き込んだ後方支持カーポート「マイポート」を発売。オープン外構に調和したシンプルモダンなフォルムと、自動車の出し入れがしやすい柱位置で、意匠性と機能性を兼ね備えた機能美を実現しました。そして、この春、マイポートの持つコンセプトはそのままだに、高級感と機能美を追求した「マイポート7」が加わり、各地で開催された展示会においても大きな反響をいただきました。

企業理念「独創力」のもと、これからも確かな技術に裏打ちされたデザイン力で「機能美」に磨きをかけ、お客様の暮らしを豊かにする製品を提供し続けることで、事業を拡大してまいります。



## 1990年～



大型引戸「ユニットゲート」

1998年 ゴミ集積庫という  
新たな市場を創出



「ゴミストッカー PS型」

## 2000年～



「マイポート」

GOOD DESIGN



「マイポートNext」

2012年 軽量構造、簡単施工  
あらゆるプランに  
対応可能な塀



アルミシステム塀  
「アートウォール」

## ■ 会社概要

会社設立	1947年(昭和22年)10月10日
本社所在地	香川県丸亀市土器町東八丁目537番地1
上場証券取引所	東京証券取引所 第一部
資本金	68億67百万円
グループ従業員数	1,131名

## ■ 役員 (2018年6月26日現在)

取締役 相談役	山下 矩仁彦
代表取締役社長 兼 C.E.O.	田中 直人
代表取締役副社長執行役員	富田 俊彦
取締役 専務執行役員	吉岡 隆
取締役 常務執行役員	真鍋 志朗
取締役 執行役員	渡邊 充範
取締役 執行役員	高木 仁史
取締役 執行役員	濱崎 誠
取締役 (社外取締役)	渋谷 博
取締役 (社外取締役)	寺田 俊文
常勤監査役	松原 純
常勤監査役	古川 和彦
監査役 (社外監査役)	井出 義男
監査役 (社外監査役)	籠池 信宏
執行役員	岸 孝昭
執行役員	井出 浩孝
執行役員	平尾 浩彦
執行役員	片山 和彦
執行役員	真鍋 宣訓
執行役員	遠所 裕

## ■ 株式の状況

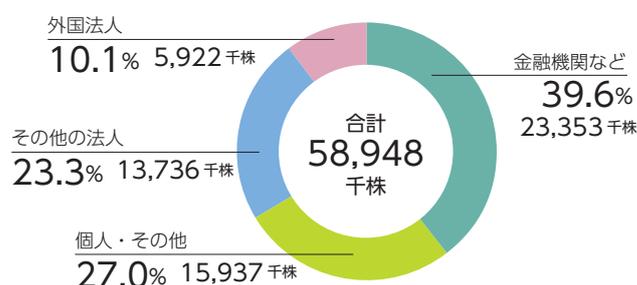
発行可能株式総数	235,850,000株
発行済株式総数	58,948,063株
株主数	4,314名

## ■ 大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日清紡ホールディングス株式会社	5,580	9.55
シコク共栄会	4,238	7.26
日本生命保険相互会社	3,295	5.64
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (退職給付信託口・株式会社百十四銀行口)	2,640	4.52
株式会社香川銀行	2,500	4.28
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	1,836	3.14
株式会社四国銀行	1,750	3.00
J.P. MORGAN BANK LUXEMBOURG S.A. 380578	1,558	2.67
株式会社伊予銀行	1,500	2.57
株式会社中国銀行	1,500	2.57

(注) ● 持株比率は自己株式を控除して計算しております。  
● 日本マスタートラスト信託銀行株式会社(退職給付信託口・株式会社百十四銀行口)の持株数には、株式会社百十四銀行が自己名義で保有している300千株を含めて記載しております。

## ■ 所有者別株式分布状況



## ■ 株主メモ

<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 事業年度 4月1日から翌年3月31日まで</li> <li>■ 定時株主総会 毎年6月</li> <li>■ 基準日 定時株主総会 3月31日 剰余金の配当 期末配当 3月31日 中間配当 9月30日 このほか必要ある場合は、あらかじめ公告して臨時に基準日を定めます。</li> <li>■ 公告方法 当社のホームページに電子公告として掲載いたします。 <a href="http://www.shikoku.co.jp">http://www.shikoku.co.jp</a> 但し、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 株式に関するお問い合わせ先           <ul style="list-style-type: none"> <li>● 証券会社等に口座をお持ちの場合 お取引の証券会社等になります。</li> <li>● 証券会社等に口座をお持ちでない場合(特別口座の場合) (郵便物送付先) 〒168-8507 東京都杉並区和泉2-8-4 みずほ信託銀行 証券代行部 (電話お問い合わせ先) フリーダイヤル 0120-288-324 (土・日・祝日を除く9:00~17:00)</li> </ul> </li> </ul>
--	--

## ■ 株主優待制度について

期末現在における1,000株以上保有の株主様を対象に、地域の特産品(3,000円相当)を贈呈いたします。  
2018年6月には、地元香川の特産品である讃岐うどんをお届けいたしました。